

<中学生の部>

最 優 秀

「タイ人との交流を通して」

北杜市立甲陵中学校 3年 富岡 水

私は今年の夏休み、タイ北部の都市チュンライに行き、山岳少数民族を支援するNGOのボランティアに参加しました。ここでは、外国人ボランティア、外国人インターン生、タイ人などたくさんの方が共同生活し、グループに分かれて様々な活動を行っています。私の主な活動は、山岳少数民族の子供たちが通う小学校での日本語の授業、幼稚園での子供の世話でした。小学校に週三回、幼稚園に週一回のペースで行きました。授業の内容は過去の日誌を参考に自分たちで考え、計画します。子供たちが楽しく学べるような授業にするため、毎回長い時間話し合って準備しました。準備のときは、英語・タイ語・日本語が飛び交います。準備を協力して行うために、それぞれがわかる言葉を少しずつ補い合ってコミュニケーションをとるのはとても新鮮な経験でした。そして小学校や幼稚園で、子供たちともっとコミュニケーションを取りたいと思った私は、必死でタイ語を覚えていくようになりました。「ファン(聞いて)」、「スワイ・マイ(とても可愛い)」、「スヨイ(すごい)」、「カイヤンマイセット(誰かまだ終わっていませんか?)」、「セットゥルーヤンカ(終わりましたか?)」などです。最初は緊張した声かけですが、私の拙いタイ語が子供たちに通じたときはとても嬉しくて、自信に繋がっていきました。自分から声をかけなければいけない状況を繰り返すうちに、私はいつの間にかタイ語を覚えていきました。

週末はNGOの施設から離れて、山岳少数民族の村にホームステイに行きました。私が行ったのはラフ族の住むヤフー村です。ガイドのヤカーさんの家にお世話になりました。ヤフー村で驚いたことは、電気がほとんどないことです。村の中心に小さなソーラー発電機が一台あるだけで、この電気を村人が順番に使っています。つまり、ほとんどの家に十分な電気が通っていません。私が行ったときも、夕食の最中に暗くなってしまい、ろうそくを出してくれました。村人は早寝早起きで、夕食のあと暗くなれば就寝します。日本での私の生活とは違い、電気を使わないですむ生活を送っているのです。またヤフー村では基本自給自足です。なかでも竹が生活のあちこちに利用されていることには本当に驚きました。家の材料にも調理にも、皿や箸やカップにもすべて竹を使います。刃物を器用に操って、その場で次々に竹を加工している姿は目が離せませんでした。私も実際にコップを作ってみました。力の加減や細かい部分がとても難しかったです。また竹を筋に沿って細かく切ったもので作る指輪の作り方も教えてもらいました。昔は男性がこの指輪を作って、結婚指輪にしたそうです。ヤ

カーさんは「お金がないからみんなこうしている」と笑って言っていました。あるものを使うという工夫と、心のこもった手作りの指輪はとても素晴らしいなと思いました。そしてもう一つ驚いたことは村に病院がないことです。病気にならないようにすることが一番ですが、村人は病気になると村にいるキムラ人のもとへ行きます。キムラ人とは神に存在が近い人のことを言うそうです。薬は無いけれど、キムラ人の指示通りにすると病が癒えるそうです。ラフ族は神を信じており、暮らしのなかにごく自然に神の存在があるのだそうです。

タイに滞在中、お世話になったスタッフの「NGOの施設でも、ボランティアをするときも、工夫が大切」の言葉を頭のすみに置いて、毎日工夫することを考えて過ごしました。最初は大自然の環境で、部屋に大きな虫やネズミが出たり、雨期で蚊が大量発生したり、水のシャワーしかないことなどに慣れなくて、本当にここでやっていけるのか心配でしたが、いつの間にかそんなことには慣れてしまって、もっとここにいたいと思うようになりました。タイには「サバイ(気楽に)」という言葉があります。大らかなタイ人の性格と自然の中の暮らしに触れていると、私も不思議と同じように思えるようになっていました。私はタイを訪れる前、山岳少数民族が抱える問題を学んでから行ったので、ここの人たちはもっと貧しくて大変な思いをしていると思っていました。しかし実際に私が出会った人たちからは貧しさを感じませんでした。決して裕福ではないし、日本と比べると不便を感じる暮らしです。でも彼らは自分たちの生活を楽しんでおり、それがとても豊かに見えました。これは実際に行って、見て、体験して、感じなければわからないことでした。私が最初難しく思えたことも、終わる頃には慣れて楽しく思えるようになったこともそうです。ボランティアに行ったはずの私が逆に素晴らしい体験をさせてもらえたことに感謝の気持ちでいっぱいです。今回の自分の活動が少しでも彼らのためになれば嬉しいです。